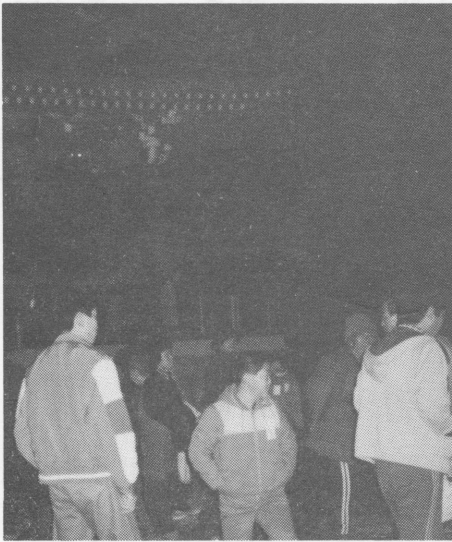


廣福寺だより

13 号



聞く
 仏法聴聞（ちようもん）とか聞
 法（もんぼう）と申します。一
 生涯聞きとおしていくのが真宗門徒。鐘の声
 は早く気づいて助かってくれよという如来さ
 まのお喚びかけ。年々歳々のことながら報恩
 講（下）、除夜の鐘つき（上）に老いも若きも
 幼きもお参り頂いて活気にあふれました。



3 月 9 日
本山御布教
梵 鐘 講

午前10時 おつとめ
 布 教
 滋賀県草津市 阿弥陀寺
 駒 井 道 生 師

正 午 おとき
 午 後 余 興
 午後7時 お初夜

皆様お誘い合
 わせ、お参り下
 さるよう御案内
 申し上げます。

一切をおかげ様と頂く

△松島義弘師 報恩講御布教の中から▽

歎異抄第二章に示されてありますが、関東からの御同行を前にして、たずねてこられた



のは「往生極楽の道」を問い訊かんがためと言いつた、そのお答えが、親鸞におきては、ただ念仏して弥陀に助けられ参らすべし

ということ。皆さんが今日お参りになった目的もまた往生極楽の道をきかんがため。凡夫だけが回り道なしに、まっすぐにお浄土に生まれお助けにあずかれる道、その道がお念仏申すこと。生身で生きている今お浄土のはたらきを頂く。助かってくれよと願って下さっている本願によって建立された世界がお浄土ということ。地獄、餓鬼、畜生の歩みしかできない我々が如来の胸の中に目をさましていく。困ったということから逆にめざませられていく。その道がお念仏。お念仏申せる身になることがお浄土への歩み。どうか助かってくれよ、これこそお前が求めている世界なんだよとして成就下さった世界がお浄土。やるせない如来さまの願いを受け止める力のない凡夫に向かって、如来の方から歩み出して念仏となつて下さった。如来の心が我々に届

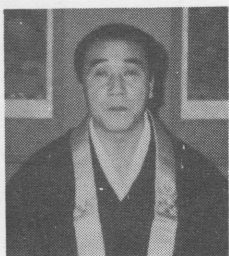
いて下さる。それがナムアミダブツという言葉の如来になつて下さって我々をよびままして下さる。そこではじめて我々は如来の心を願いをうかがい知ることが出来る。それがお念仏申せる身になった、助かったということ。お浄土への歩みを一歩踏み出したこと。

我が身のおかれていゝ事実があるがまゝに受けとれない。これ一つあれば満足できる世界が見いだせないのが凡夫。本願にめざめると身の事実が自分の思いに反していても、これこそが私でございましたと気づかせて頂いて。病氣のおかげで病氣なんかしないと願っていた身のおやまりに気づく。病氣が大事なお縁。一切をおかげさまと頂ける身になる。

本師源空いまさずば

△雲郷彰師 報恩講御布教の中から▽

人間の体はそねみ、ねたみ、うらみ心でいっぱい。その凡夫の私に向かつて念仏のいわ



れを聞いて、どうかお浄土へ生まれ変わってくれよというのが真宗の教え。九十年の御生涯を通してこの教えを私どもに伝えて下さ

たのが御開山親鸞聖人。比叡山で堂僧として血のにじむような御修行をされたが煩惱断れがたく、建前と本音がバラバラに引き裂かれ

ていく。迷うに迷うた末に六角堂におこもりをして観音さまの夢のお告げを受けられ聖覺房に導かれて吉水に法然上人をたずね、はじめて本願念仏の教えにあわれた。自力をひるがえして他力の門に帰された。人間の心の底の底まで見通して立ち上がった下さった阿弥陀如来のお念仏に、はじめて人間に生まれたよろこびを見いだされた。そのよろこびの和讃が「叡劫多生のあひだにも／出離の強縁しらざりき／本師源空いまさずば／このたび空しく過ぎなまし」。法然上人に出遇つて弥陀の御本願を頂く御縁をえたよろこびのうた。

皆さんが報恩講にお参りになるのは、念仏一筋に日暮らしをしてくれよ、お念仏を味わってくれよという御開山のお心に生きること。お内仏にあげるお花は阿弥陀さまのお慈悲の心をあらわす。生涯罪をつくりグチをこぼし腹をたて、我を張っている凡夫に、ただ念仏のみぞまことにてましますと花に托してよびかけていて下さる。ロウソクは智慧の光明をあらわす。人間の目は見通せぬ目、如来の光りに照らされてはじめておろかな自分に気づかせて頂く。香はうるおいのある人生をおくり人生を見きわめていく。「別れゆく道は遙かに隔つれど宿りは同じ蓮のうてな」たとえ身は別れても同じお念仏に生きるもの、いずれはお浄土でめぐりあおうの心。このお心を報恩講に当たりじっくり味わってみたい。

御台座懇志

一金貳万円

和納 広沢 和夫
東京 松宮 信一
心光寺 柏原 善了

一金壹万円

幕島 八子 逸夫
千葉 丸山 国男
寺泊 島田 一三雄

麓一区

島田多三之助
武石金衛

弥彦

田中 七郎

本町

加藤 与正

新湯

新館 正明

一金叁千円

山崎

松居 昌作

石井 四郎

石井 慎吾

石井 義信



山岸 大宮 麓一区

松居 鉄雄
松居 金治
石井 登
武石 進
武石直右衛門
武石 兵吉
武石 光夫
本多 助吉
武石 新兵衛
大谷 新九郎
武石 橋場
武石名右衛門
武石 常七
木村郷左衛門
武石 八十吉
青木平右衛門
本間三左衛門
武石 重蔵
武石 焼山
鈴木 孝



御懇志ありがとうございました 前号に中間報告後、以上の方々の御上納を頂き合計で八拾九万壹千三百貳拾円となり別表の支出を

弥彦

一金貳千円

弥彦 清水 タイ

鈴木 靖夫
五十嵐 惣一
武石 定吉
渡辺権右衛門
武石 和助
本多 清兵衛
本多 清左衛門
本多治郎右衛門
本多 哲夫

坂田 富二
観音寺 柄沢 要助
一金壹千円

麓一区

武石元左衛門

鈴木嘉右衛門

武石 丈助

武石 安場

武石 源十郎

一金参万八千三百貳拾円

女性 講中

御寄進

昨年度次の方々から御寄進を頂きました。(写真上から)

まかなうことができました。皆様の御懇念に厚く御礼を申し上げます。おかげさまでこの事業を完了することができました。

◎中尊御宮殿隅環珞一對

一金貳拾万円

麓一区 木村三千雄殿

◎本堂平鑿台塗箔・平鑿砂張布団

一金五万円

麓二区 篤志者殿

◎書院用花梨長尺座卓

一金壹拾貳万円

長崎 竹之内清栄殿

おかげさまで本堂庫裡

の荘厳が整いました。

勸金の門徒交際費から

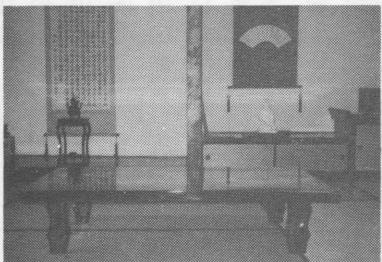
しるしばかりの御礼を

さしあげました。厚く

御礼を申し上げます。

お台座建造工事支出

工事費	682,000
工事材料	51,880
組帯	75,320
石付雑記	82,120
合計	891,320



I 昭和62年度 当寺勸金決算書

〔収入の部〕

科 目	決 算 額
勸 金	1,848,000
雑 収 入	38,701
繰 越 金	145,686
計	2,032,387

・負担金の内訳

広福寺分	437,764
心光寺分	123,130
ともしび	24,000

〔支出の部〕

科 目	決 算 額	摘 要
寺務経常費		
負 担 金	584,894	本山護持金・ともしび
事務通信費	45,640	複写・はがき切手
会 議 費	65,900	世話方・総代会議
教 化 費	249,760	御布教・広福寺だより
営繕管理費	703,325	整地・舗装・火災共済
門徒交際費	96,600	御本尊下付・見舞・謝礼
小 計	1,746,119	
事 業 費	300,000	心光寺御厨子助成金
繰 越 金	- 13,732	次年度へ繰越し
計	2,032,387	

定例総代会議決議のお知らせ 去る二月十一日の定例総代会議で別表ⅠⅡの決算書、予算書、前頁お台座建造工事決算が承認されましたのでお知らせ申し上げます。御本山と菩提寺のおもりたて、おとりもちに寄せられた門徒各位の御懇情まことにありがたく厚く御礼を申し上げます。

II 昭和63年度 当寺勸金予算書

〔収入の部〕

科 目	予 算 額
勸 金	2,100,000
雑 収 入	5,000
繰 越 金	- 13,732
計	2,091,268

〔支出の部〕

科 目	予 算 額
寺務経常費	1,570,000
事 業 費	430,000
予 備 費	91,268
計	2,091,268

昨年度は新墓地のわきに駐車用地を碎石で整地して頂き、おかげで教区の布教大会会場をお引き受けすることができました。本年度は事業費で細かい砂利で歩きやすいように整地を進めることになりました。また営繕管理費で境内井戸小屋周辺の通路の整備、本堂周辺側溝の蓋とりつけ、心光寺杉木立の枝打ち

写真は、心光寺御厨子、参道舗装(上)と整地(下)

などが予定されております。教化面では女性講のとだえている地区の復活継続、若い世代の方々が寺に近づいて頂くため聞法会などの活性化につとめていく所存であります。門徒一戸当たり八千円の勸金 本年度は一納期は八月末日までお願い 戸当たり八千円の勸金を八月末日までお願いすること地区は住職がお願いに参上いたします。

